

平成29年度事業計画書(H29.4.1～H30.3.31)

はじめに

平成29年度事業計画策定の基本方針

『環境の変化に対応した事業の発展・拡充』『市民ファーストの視点を明確化』

我が国では超高齢化に一層の拍車がかかるにつれ、骨粗鬆症患者も増加の一途を辿っています。しかし、骨粗鬆症検診率は4.36%(平成22年)と低迷しており、多くの人が骨量の低下を発見する機会を逃しているのが現状です。

骨粗鬆症財団に求められる活動は、様々なりスクの段階に応じた骨粗鬆症の知識の正しい普及と啓発です。すなわち、健康な人、70%～80%の骨量の予備群、骨粗鬆症と診断を受けた患者、すでに骨折を起こした患者など、全ての層に対して要介護状態へ向かう道筋を断つ、そのために如何に効率的な啓発活動を行うかが活動の柱となります。

また、社会環境も著しく変化しています。

近年、スマホやSNSの普及など情報発信の媒体が多様化しています。それにより、最近では医療系まとめサイトにおける不正確な記述や不適切な引用が話題になりました。

マスコミに骨粗鬆症が取り上げられる機会は増えましたが、製薬業界や関連団体での骨粗鬆症分野における活動は減少傾向にあります。こうした骨粗鬆症を取り巻く環境の変化に、新たなルートの開拓も含め、公益法人という立場からいち早く対応していく必要があります。

当財団の25年における活動を通して、骨粗鬆症という疾患名に対する一般の認知度は高くなった実感があります。しかし、必ずしも骨粗鬆症の知識レベルが高くなったとは言えません。今期は従来 of 財団事業を継続しつつ、一般市民は正しい知識を十分に得る権利があるという姿勢で取り組む所存です。

重点項目

1. 情報発信機能の充実

ホームページ、SNS、財団ニュース、メディアプログラムなどを活用して骨粗鬆症の話題、財団活動等の情報発信を行う。

2. 財団資材の見直しと新規企画

市民、患者、医療従事者などターゲットを明確にした資材を提供する。

3. 地域イベントへの参画

地域骨を守る会や地域イベントへ企画提案し、積極的に支援する。

4. 協力団体との連携

新たな組織団体(薬局、自治体、生命保険会社、健康関連団体、学会等)へのルートを開拓するとともに、協力体制を構築する。

5. 財団資源の充実化

財団が取り組むべき調査・研究により、財団独自の疾患に対する情報を充実させる。

【公益目的事業】

(1) 普及・啓発事業

イ) 骨粗鬆症に関する資料・資料の作成と配布

* 骨粗鬆症に関する、特にリーフレットはニーズが高く、啓発の重要なツールと位置付けられるが、近來、請求者はリピーターが多い。未使用の団体にも活用を呼びかけると同時に、素材はホームページから自由に取得できるようにし、幅広く活用してもらおう。

- ・既存の資料は従来通り、原則無料配布
- ・新規の資料を作成する際には、利用者の感想や意見を得るためモニタリングを行う。

〈平成29年度新規作成〉

- i) 世界骨粗鬆症デー2017 ポスター・リーフレット「Love Your Bones -Protect your future-」
- ii) 骨量測定推進ビデオ : 「骨量の測定が大事なワケ(仮題)」
- iii) 骨量測定推進ポスター : 骨量測定の重要性を訴求する
- iv) パンフレット : 「転倒をなくして骨折を予防(仮題)」 ※日本宝くじ協会 助成金に応募中
- v) 薬剤師向け教育資料 : かかりつけ薬局、健康サポート薬局支援
- vi) 骨粗鬆症連携手帳 : 患者が持つことで、それぞれの特性を活かした医療スタッフのサポートを受けることができるための手帳

ロ) ホームページ、Facebook等での情報発信

- * 骨粗鬆症の知識の普及啓発に、より重点を置いたサイトを目指し、リニューアルを行う。
- また、Facebookのようなリアルタイムでの発信、動画共有サイトの活用にも積極的に取り組む
- ・正確な情報と適切な引用を掲載することで閲覧者の信頼を得る。
 - ・アクセス数をアップさせ、バナー広告掲載を増やす。
 - ・財団の活動をアピールする情報公開は引き続き行い、骨粗鬆症財団の認知度を高める。

『病医院紹介ページ』

掲載数の増加を図りつつ、他の紹介サイトとの相互リンクにより閲覧者が病医院を検索しやすい環境にする。

『骨粗鬆症アカデミー』(新規コンテンツ)

賛助会員や、薬剤師・骨粗鬆症マネージャー等を対象に財団の持つスライドやビデオ等のコンテンツを公開し、骨粗鬆症領域における知識を向上させることで、一般への普及効果を狙う。

ハ) 広報誌等による情報発信

- ・財団ニュースの発行:
 - 年2回発行(7月、1月)を目安に、財団の活動紹介をeメールにて配信する。
- ・患者やその家族を対象とした情報誌の発行(新規):
 - 年2回、eメールにて配信。患者、家族、骨粗鬆症予備群に対する正しい知識を提供する。
 - 一方通行の誌面とならないよう、委員会や患者の編集参加の場を設ける。配信希望者を積極的に増やすため、「全国骨を守る会」と協力する。
- ・『Osteoporosis Japan PLUS』(ライフサイエンス出版)の活用:
 - ・編集の協力(編集委員会への参加、内容の監修など)

ニ)世界骨粗鬆症デー(WOD)キャンペーン

* WOD関連活動を増やし、プレスセミナーを通じてメディアに広報することでWODの認知を向上させる。

・報道関係者向けセミナーを開催

より多くのマスメディアが参加するよう、随時財団情報の発信に努める。

・WODポスター&リーフレットの作成・配布

従来の自治体の検診担当者や病医院に加え、骨粗鬆症マネージャー等も配布対象とする。

・イベント

公共の広場や商業施設・学校等、小～中規模会場でイベントを開催(骨量測定会や健康度チェックなど)

各地域の骨を守る会と共同で同種のイベントを実施し、エリア毎のWOD周知活動を充実させる。

・WODビデオの掲示

駅や交通機関など公共空間におけるデジタルサイネージ(電子ディスプレイ)に掲示

ホ)骨量測定拡大キャンペーン

* 「自分の骨量を知る」ための手軽な導入手段としてQUSを活用し、“国民皆骨量測定”を目指す。

・QUSによる骨量測定体験会

複数回実施することで測定率アップを図る(QUSを所有しての骨量測定にあたっては法的要件をクリアして行う)

・骨量測定推進ポスターを配布

・他の団体が実施する骨量測定会を支援する(資材の提供等)

* 全国の自治体検診担当者の参考となるよう骨粗鬆症検診成功事例の紹介

検診率の高い自治体について、骨粗鬆症検診実例紹介として成功例を取り上げ、コンテンツ(VTR等)を作成し、ホームページに掲載

ヘ)地域「骨を守る会」の支援・連携の拡大

* 地域「骨を守る会」によって実施されている市民啓発活動を支援する。また今期は、特にWODイベントを地域「骨を守る会」と連携・協力して推進する。

・各地域の骨を守る会に対し活動資金を助成

・第6回「全国骨を守る会連合会」開催

(「全国骨を守る会連合会」は「全国骨を守る会」に名称を変更)

・空白となっている四国地区において関連の先生に打診を行い、新組織化を図る。

ト)セミナー・講習会の開催

・教育ゼミナール

今後はニーズの高い話題がある際の不定期開催とする。

・骨量測定法講習会「精度よくDXAで骨量を測るためのeラーニング」

平成28年度よりYou Tubeにて公開開始、機器会社の協力も得て視聴者拡大を図る。

・その他、「骨粗鬆症アカデミー」(HP)で映像配信型講習を推進

チ)電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

- ・テレビや新聞で骨粗鬆症が取り上げられると増加する傾向にある。治療方法に関する質問も多く、誰かに相談したいという層が潜在的に存在すると思われる。引き続き正しい情報の提供に努める。
- ・雑誌、テレビなどの情報媒体からの取材を積極的に受け、より多くの情報提供に活用する。

(2) 研究助成事業

・以下イ)～ハ)の3つの助成について、募集・選考・助成金交付を実施する。助成期間終了後に助成者が提出する研究報告は成果物として報告書を作成、研究者や骨領域関連団体等に配布。同時に、全文をホームページで掲載。

イ) 財団研究助成

- ・第25回(平成29年度)の助成交付(平成28年11月～12月募集分)
- ・第26回(平成30年度)(研究期間:平成30年4月～平成31年3月)
 - ・募集課題/件数
 - 【一般課題】 5題(60万円) 骨粗鬆症に関する基礎・臨床研究及び調査
 - 【指定課題】 最大3題(総額300万円)
 - ・募集:平成29年11月1日～12月の最終営業日

ロ) 第14回リリー研究助成プログラム(臨床)(研究期間:平成30年1月～12月)

- ・10題の選定(80万円)
- ・募集:平成29年7月1日～8月31日

ハ) 第11回旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題)(研究期間:平成30年4月～平成31年3月)

- ・8題の選定(50万円)
- ・募集:平成29年9月1日～10月31日

(3) 調査・研究事業

* 本年度の調査・研究事業においては、臨床統計の専門家のサポートを受けつつ行う。

イ) 骨粗鬆症診療実態調査(電子レセプトデータを利用した骨粗鬆症診療実態調査)の実施と論文化

- ①北海道での大腿骨近位部骨折発生状況
- ②NDB解析による全国での大腿骨近位部骨折発生状況・検査や薬物治療の実態

ロ) 骨粗鬆症治療薬の服用に関するアンケート調査(HAPPINESS-J Study)

経口ビスホスホネート製剤を服用する患者と主治医へのアンケート調査と解析(終了)

本年度は以下を論文化する。

- ・服薬に関する課題/新規骨折に関する課題/ロコモ等、身体機能(ADL)に関する課題
/男性骨粗鬆症

ハ)第6回大腿骨近位部骨折全国調査

2017年における新発生患者数を推定するためのアンケート調査
坂田清美先生(岩手医科大学)を研究リーダーとして実施する。

ニ)A-TOP研究データの再解析

高齢者における骨粗鬆症の病態の多様性について解析

(4)情報収集&国際交流

イ)IOF関連

・情報交換と連携の強化を行う

Board Meetingへの参加(2017年電話会議、2018年クラクフ(ポーランド)開催参加予定)

患者の会(2017年フィレンツェ(イタリア))参加、日本におけるWOD活動報告でコンクールに応募

ロ)行政情報収集&ロビー活動

・健康局 がん対策・健康増進課への協力要請

・WODポスターの後援を依頼、検診の推進連携を依頼

ハ)健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換

ニ)関連団体等との情報交換&連携強化

・特に日本骨粗鬆症学会との連携

・賛助会員の会合

4月開催、財団の事業説明を行うとともに普及啓発活動への協力を要請する。

【収益事業等】

イ)著作権関連事業

「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」をはじめ、財団資料・ホームページなど、骨粗鬆症財団が有する著作権の譲渡又は提供

【その他】

イ)賛助会員増強や寄附金募集の推進

新規加入の賛助会員や寄附金の獲得に引き続き努める。従来の勧誘先に加え、新たな分野をターゲットとして組み込む。

・骨粗鬆症及び関連企業：

製薬企業／食品・サプリメント関連企業／生命保険関連企業／調剤薬局(加盟団体) 等

・個人：

病医院リスト掲載医療機関／全国骨を守る会 等